

高校百校新設計画 すべての者に学びの場を

～広がる教育とその先へ～

はじめに

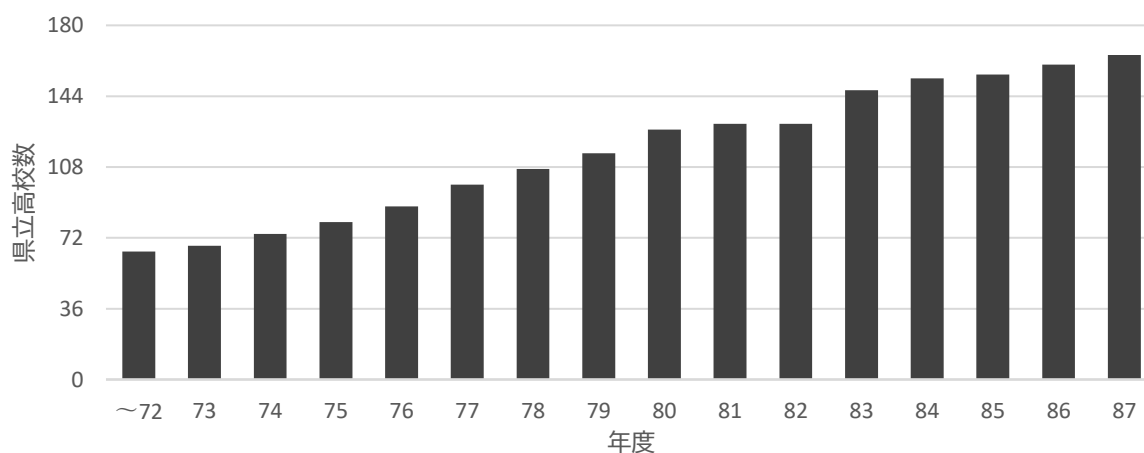
高校百校新設計画とは 1873 年(明治 6)後半からの中学校卒業者の増加と長期的な高校進学率の上昇を背景に県立高校を 100 校新たに新設する動きであり、神奈川県における最重点施策の一つである。高校生である私自身の視点からその全貌と知事について探っていききたい。

1.高校百校新設計画について

1-1 始まりと経緯

- 1975 年(昭和 50) 関東知事会に「高校増設に伴う助成措置要望」を議題として提出。「高校教育問題を考える」県民討論議会スタート
- 1978 年(昭和 53) 県立高校建設に「文化のための 1%システム」導入
- 1979 年(昭和 54) 県立高校に個性化推進校設置
- 1987 年(昭和 62) 県公私立高等学校生徒急増減政策検討委員会設置
100 校計画達成(65 校→165 校まで増加)

表-1 県立高校数の推移



上記政策が行われた後の年に高校数がより上昇している

現在は 134 校まで減少している(少子化や高校の統合、私立の登場)

1-2 特徴と工夫

- ・文化のための1%システムの導入
- ・個性化推進のための施設づくり
- ・二校連携方式の新しいタイプの高校設置

1-3 難問の解決

- ・県民の理解,協力→県民討論会の開催
- ・用地の確保
- ・資源の確保→県債の発行、国庫補助制度、超過課税の実施

2.長洲知事とその目的

上記政策および百校計画は長洲一二(ながすかずじ)県知事が達成

ここで長洲県知事について調べ計画の動向を深掘りする

2-1 長洲知事とは

1919年(大正8)東京都千代田神田に出生。18歳の時に日本銀行調査局に勤務する。その後横浜高等商業高校、東京商科大学を卒業。三菱重工業に勤務後、東京商科大学の特別研究生になる。1951年(昭和26)から約20年間横浜国立大学の教授や、経済学部長として活躍し、1974年(昭和49)に退官。

1975年(昭和50)神奈川県知事選挙に出馬し、初当選。専門はマルクス経済学。神奈川県知事、地方分権推進委員会、神奈川県国際交流協会会長、かながわ学術研究交流財団理事長など数々の仕事を歴任した。

2-2 長洲が目指した百校計画

そんな長洲知事が百校新設を目指したのは何故だったのだろうか。

① 高校生徒の急増

第一次ベビーブーム短期的な高校生徒の急増がちょうどピークを超えた昭和四十二年頃、小中学校在籍児童生徒数の状況などから、将来的に中学校卒業者が増加する傾向が明らかになっていった。当時もやはり今と変わらず将来像を考えて高校進学を希望する者が多かった。

表-2 公立中学校卒業者の全日制高校への進学率の推移

年度	35	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
全日制高校 進学率(%)	55.8	73.8	75.5	78.9	81.8	84.0	86.7	89.1	90.4	92.4	93.0
年度	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
全日制高校 進学率(%)	91.4	90.6	90.5	90.5	91.2	91.6	91.3	91.1	91.8	91.1	90.7

出典:「伸びゆけ若者たち 高校百校計画達成の軌跡」
年々明らかに進学率が上昇していることが分かる

→1人でも多くの生徒が希望に沿った進路選択が出来るようにしたかった。

② 子どもたちへ学び場の提供

以下「ふれあい教育のすすめ」※注より

愛、喜び、悲しみ、苦しみといった最も人間らしい心は人とのふれあい、結びつきからのみ生まれてくる。人付き合いのすべてを乳児期は母親が賄ってくれるが、大きくなるとそうはいかない。多様な他人とのふれあいの決まりを身につけなければ生きられない。子どもたちがいろいろな形で、人と触れ合える機会を、親や先生の手で作ってあげてほしい。

→子どもたちに色々な感情に触れることの出来るふれあいの場の一つとして学校を提供したかった。

3 今後の展望

3-1 教育環境の充実 -生徒急減期対策-

今現在少子化が進んでいる。急減期は、高校教育の教育条件を整備し、一層の充実を図っていく良い機会であると考えられる。公私の協調・共存を前提として定員が大幅に落ち込むことのないように呼びかけるとともに学級定員の縮小を検討する。余裕の出来た教室を小集団学習や、多様な選択科目の学習の場として活用するなど、個性化教育の充実を図ったり、県民の多様な学習要求に応えるため生涯、学習の場として展開したりする。地域にも開放し、人との交流の場として多様にふれあう事のできる機会をふやす。

3-2 多様化と人材育成

少子化と共にグローバル化や情報化、生徒の価値観の多様化が加速するなかでより柔軟な教育現場にする。生徒の成長にとって何が重要かという視点を最優先する(スチューデント・ファースト)を念頭に置き、質の高い教育を目指す。また、未来の日本、郷土神奈川を担い支える人材育成を行う。

※注「ふれあい教育のすすめ」,,,長洲一二の著書の一つであり、教育とは人間と社会という広い流れのなかでとれる大切さや、ふれあいとは何かを、自身のお県知事の経験を踏まえた視点から熱心に語っている

終わりに

高校百校計画は長洲県知事のすべての子どもたちに教育の場、ふれあいの場を提供したいという強い思いから始まった。神奈川県最重点政策として難問を解決のうえ、百校新設を達成した。現在では少子化や人材獲得といった新たな問題が高校改革の第二章として始まっている

参考文献

・神奈川県教育委員会管理部総務室/編 「伸びゆけ若者たち 高校百校計画達成の軌跡」神奈川県教育委員会--1987.3-- --

・久保孝雄「知事と補佐官 長洲神奈川県政の 20 年 戦後地方自治の証言 1」
敬文堂--2006.6-- --

・長洲一二「ふれあい教育のすすめ」講談社 1984.10

・神奈川県「県立高校改革の変遷について」「教育・文化・スポーツ」
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f531868/kaikaku_koremade.html(参照 2024 年 9 月 11 日)

・神奈川県高等学校教育会館「検証 高校改革推進計画・・・その 1 教育研究所」
<http://www.edu-kana.com/kenkyu/nezasu/no47/tokusyuu8.htm>
(参照 2024 年 10 月 3 日)

・横浜国立大学「YNU プラウド卒業生文庫 長洲一二」「横浜国立大学附属図書館」
https://proud.ynu.ac.jp/wp/kazuji_nagasu.html(参照 2024 年 12 月 9 日)